

**2004年度（2005年3月期）
決算説明会**

**2005年5月12日
大正製薬株式会社
副社長 大平 明**



TAISHO PHARMACEUTICAL CO.,LTD.

**2004年度業績と
2005年度見通し
〈解説〉**

2004年度業績と2005年度見通し

(単位:億円)

	2004年度	前年比	2005年度	前年比
売上高	2,794	-2.4%	2,800	0.2%
営業利益	547	-5.2%	485	-11.3%
経常利益	581	-5.1%	515	-11.3%
当期純利益	355	-13.3%	355	0.0%
1株当たり当期純利益(円)	114.15	-10.7%	114.91	0.7%
売上原価率	30.3%	+0.6ppt	31.4%	+1.1ppt
売上高販管費比率	50.1%	-0.1ppt	51.3%	+1.2ppt
研究開発費	232	-3.9%	245	5.5%
広告宣伝費	173	-2.0%	173	0.2%
販売促進費	282	-2.2%	295	4.4%

2004年度業績：損益の概況

- 売上は2%減収
- 売上原価率が上昇(前年比+0.6%ポイント)
→SMG主力品の売上未達、ロイヤルティの減少
- 売上高販管費比率は若干低下(▲0.1%ポイント)
コスト削減により、販管費は38億円減少した
 - 研究開発費 232億円(▲10億円)
 - 販売促進費 282億円(▲6億円)
 - 広告宣伝費 173億円(▲3億円)
- 前年度にあった代行返上に伴う特別利益(92億円)がなくなった→当期純利益2桁減益

売上微増、減益の見通し

- **セルフメディケーション事業 (+11億円)**
 - ドリンク剤 ▲11億円(▲ 1%)
 - リアップシリーズ +19億円(+14%)
 - Livitaシリーズ + 4億円(+21%)
- **医薬事業 (▲5億円)**
 - ロイヤルティ収入の減少 ▲22億円(▲45%)
 - クラリスロマイシンの米国での特許切れ(2005年5月)
 - 大正富山医薬品の売上計画 830億円
(+7億円)

- **原価率上昇の主な要因**

クラリスロマイシンの米国での特許切れに伴う
ロイヤルティ収入の減少

- **営業費用の増加**

- 研究開発費 245億円(+13億円)
- 販売促進費 295億円(+13億円)

- **設備投資**

2006年3月期計画は132億円(前年比+61億円)

- 多様化するニーズにきめ細かく対応できるよう、
生産設備を更新(大宮工場、岡山工場)
- 横浜事業所の新設

医療用医薬品 研究開発

研究開発パイプライン

大正製薬 開発品

開発段階	製品名・開発コード	剤形	薬効・適応症	開発形態	オリジン	備考
申請中	クラリス	経口	レジオネラ感染症	アボットジャパン共同	大正製薬	適応追加
	クラリス	経口		アボットジャパン共同	大正製薬	製剤一変 ドライシロップ(小児用) の製剤改良
	クラリス	経口	ラベプラゾール、アモキシシリンとの3剤併用による ヘリコバクター・ピロリ除菌	エーザイ、 アボットジャパン他共同	大正製薬	用法・用量変更
フェーズ3	T-3811	経口	ニュータイプ [®] のキノロン系合成抗菌剤	富山化学共同	富山化学	
フェーズ2	NT-702	経口	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う 間歇性跛行 (米国:NM-702) (閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行)	日産化学共同	日産化学	
	NT-702	経口	気管支喘息	日産化学共同	日産化学	
	パルクス	注射	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	自社	大正製薬/三菱ウェルファーマ	適応追加
フェーズ1	TS-021	経口	2型糖尿病	自社	大正製薬	
	TS-033	経口	1&2型糖尿病	自社	大正製薬	
	TS-041	経口	うつ病・不安症	ヤンセン共同	大正製薬	海外
	TS-011	注射	脳梗塞急性期	自社	大正製薬	海外
	SUN N8075	注射	脳梗塞急性期	第一サントリーファーマ共同	第一サントリーファーマ	海外
	TS-022	外用	アトピー性皮膚炎	自社	大正製薬	

富山化学 開発品(大正製薬が販売権を有している開発品)

開発段階	製品名・開発コード	剤形	薬効・適応症	開発形態	オリジン	備考
申請中	T-614	経口	関節リウマチ(DMARD)	エーザイ共同	富山化学	南アフリカ:P2a終了 韓国:東亜製薬へ導出

糖尿病、精神神経領域のパイプライン

開発コード	適応症	開発段階	作用機序
TS-021	2型糖尿病	フェーズ1 (国内)	ジペプチジルペプチダーゼIV (DPP-IV)阻害作用
TS-033	1 & 2型糖尿病	フェーズ1 (国内)	ナトリウム・グルコース共輸送体 (SGLT)阻害作用
TS-041	うつ病、不安症	フェーズ1 (海外)	コルチコトロピン遊離因子1 (CRF1)受容体拮抗作用

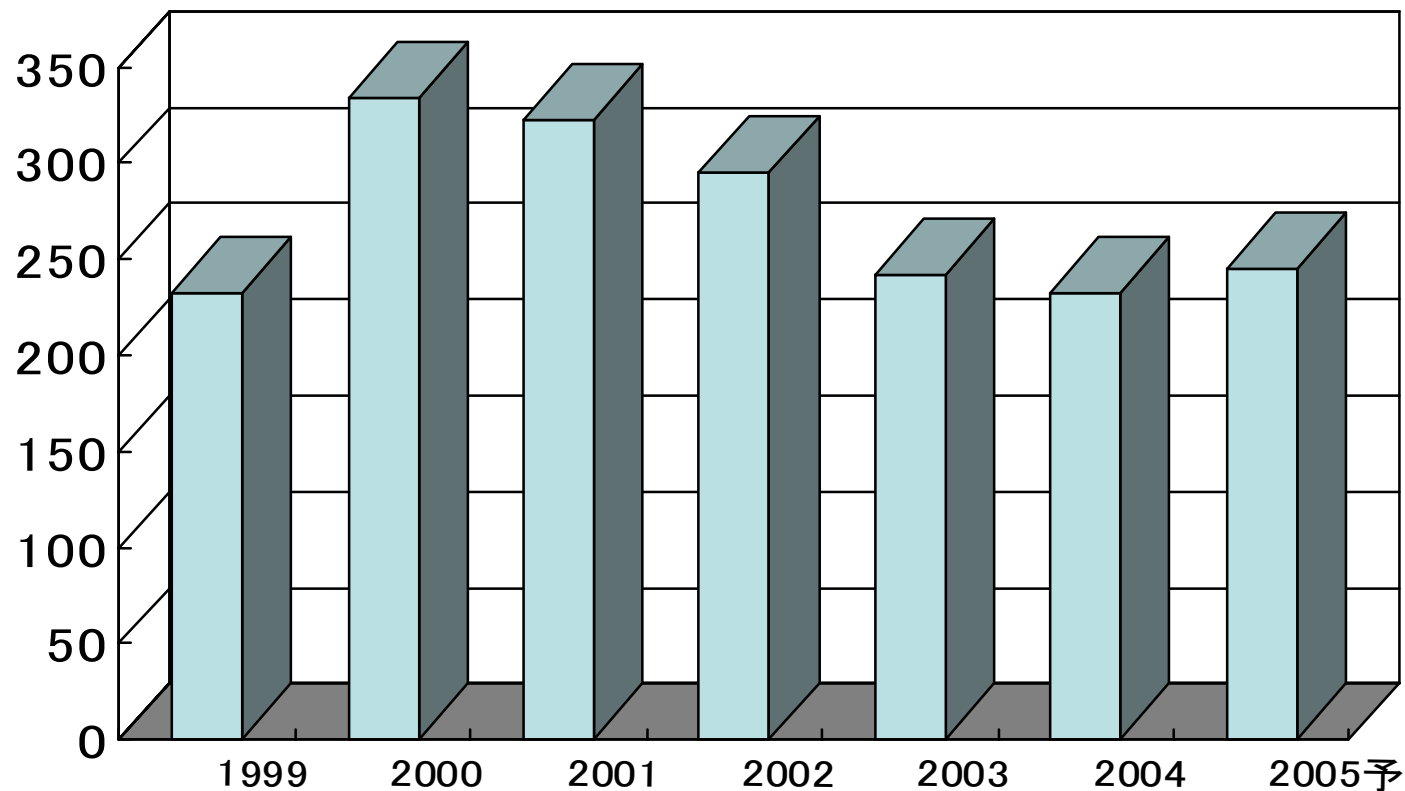
- **製品ラインアップの強化**
 - **富山化学工業との協力体制の構築**
 - **開発ステージ**

開発コード	開発段階	特長
T-3811 (経口)	フェーズ3 (国内)	ニュータイプ [®] のキノロン系合成抗菌剤

- **創薬ステージ**
 - 数テーマの共同開発を推進
 - **2005年度後期：マクロライド系抗生物質をフェーズ1へ**

研究開発費の推移

(単位:億円)



開発ステージが大きく進展する2007年度以降、増加の見通し

自社オリジナル新薬の上市

2010年頃から



**それまでの間、積極的な導入・提携で
医薬事業の収益を確保**